

喜界町指定天然記念物「ヒロハネム」の同定

久保 紘史郎

Identification of Kikai Town Designated Natural Monument "*Albizia julibrissin* var. *glabrior*"

KUBO Koshiro

はじめに

ネムノキ (*Albizia julibrissin* Durazz.) は国内では本州・四国・九州・琉球に分布し、熊本県の天草や鹿児島県甬島などには小葉がネムノキよりも大きい変種ヒロハネム (var. *glabrior* (Koidz.) H.Ohashi) が分布しているとされる (大橋, 2016)。鹿児島県内での分布は、ネムノキ (var. *julibrissin*) は鹿児島県本土が南限とされ、ヒロハネムが甬島、トカラ列島、奄美大島 (龍郷町秋名) とされている (初島, 2004)。しかしながら、喜界町川嶺には町指定天然記念物として「ヒロハネム生息地 (指定名称のとおり)」が指定されている。喜界町天然記念物指定の資料によると、このヒロハネムは1994年に鹿児島短期大学附属南日本研究所の調査により発見されたとされ、1994年度の調査報告書に喜界島が南限の種としてヒロハネムが掲載されている (大野, 1995)。それをもとに2001年に喜界町川嶺の自生地が「ヒロハネム生息地」として天然記念物に指定された。また、ヒロハネムの分布等をまとめた中西他 (2019) にも、ヒロハネムの分布南限は喜界島と記載されている。一方で、喜界島で採集され、ヒロハネムと同定された標本は確認されていない (鈴木他, 2022)。また、喜界町で採集したネムノキ属の形態を計測し、県本土のネムノキと同一種であるとの報告 (片野田, 2019) もあるなど、喜界島産ネムノキの情報には混乱が見られる。

今回、喜界町教育委員会より、ヒロハネムとして天然記念物指定されている個体について、本当にヒロハネムかどうか確認して欲しいとの依頼があり、調査したところ、この個体はヒロハネムではなく、県本土に自生するネムノキと同一の種ということが明らかになった。

1 生育状況

喜界町指定天然記念物の「ヒロハネム」は喜界町川嶺の道路沿い(28.300301°N, 129.961256°E)に生育するA個体と、その個体から5mほど離れた箇所にも生育するB個体の2個体が確認されている。現地調査時(2022/6/27)にはB個体は道路工事のため上部が伐採され、伐採部から萌芽している状態であった。

2 島内における分布調査

喜界島に天然記念物指定地以外にネムノキ及びヒロハネムが自生していないかを調べた。調査は島民からの情報収集と2022年6月26日と27日に島内を乗用車で延べ250km移動して、道路沿いから目視で調査した(図1)。調査時期はヒロハネムとネムノキの花期にあたり、開花個体があれば、車窓からでも容易に判別が可能はずである。また、車が入れない百之台東部の段丘は、麓の林道から双眼鏡を使って確認した。

調査の結果、川嶺の民家に来歴不明の個体を譲り受けて栽培されている1個体と、志戸桶の民家に来歴不明の1個体を確認したが、この2個体以外にはネムノキもヒロハネムと思われる個体も確認することはできなかった。



(●川嶺天然記念物 ■川嶺民家 ▲志戸桶民家)

図1 分布調査した場所

3 喜界島の個体と他地域個体の比較

ネムノキとヒロハネムは羽片中間部にある小葉の大きさとで区別することができる (大橋, 2016)。そのため、喜界町で採集した標本と鹿児島県立博物館 (KAP) に収蔵されているネムノキ及びヒロハネムの小葉長と小葉幅を測定して比較した。サンプルは無作為に選んだ羽片の片側の小葉を全て測定し、測定箇所を3等分し、中間部3分の1のデータを使って比較した。

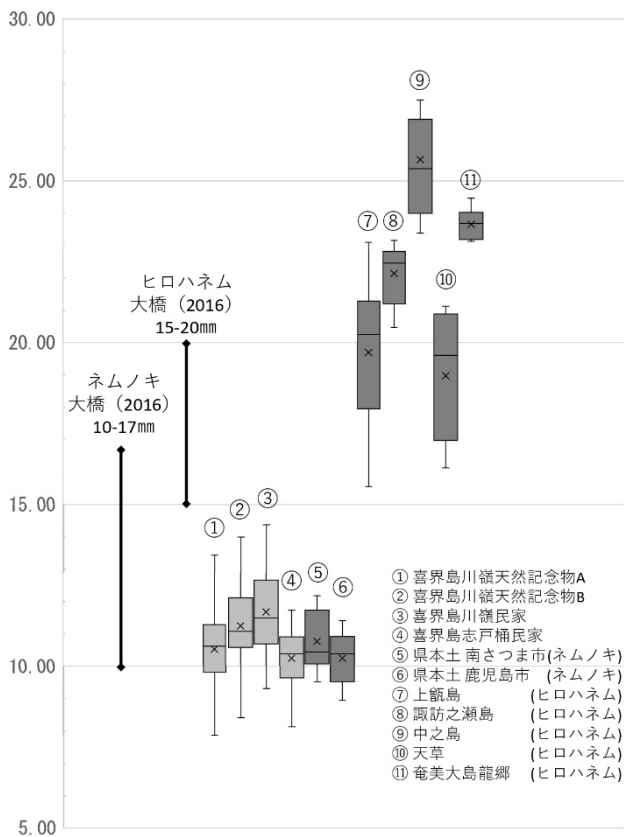


図2 小葉長比較(×平均、-中央値)

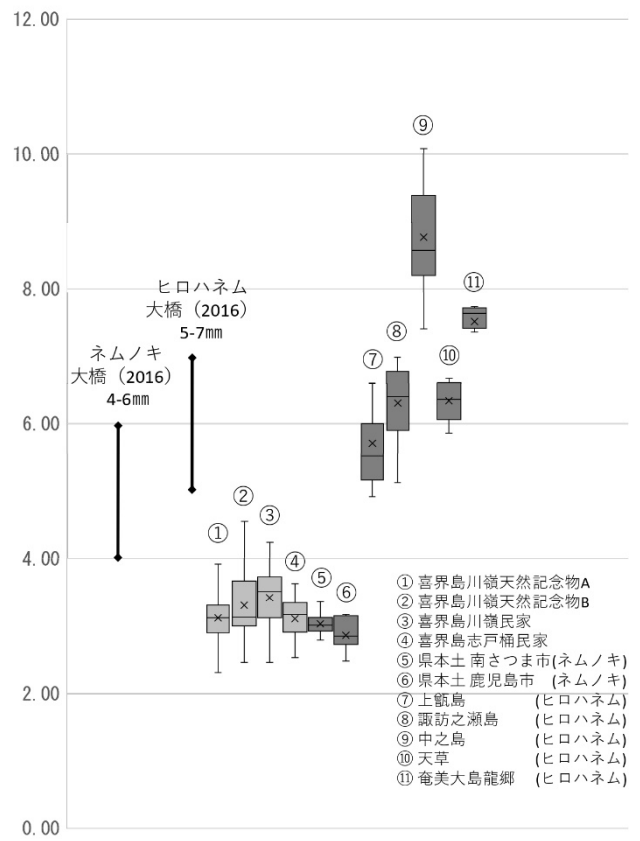


図3 小葉幅比較(×平均、-中央値)

表1 小葉長測定値比較(外れ値も含む)

産地		小葉長 (mm)	平均 (mm)	サンプル数
喜界島産	①川嶺天然記念物A	7.5-14.1	10.5	374
	②川嶺天然記念物B	8.4-15.1	11.3	99
	③川嶺民家	9.3-14.4	11.7	142
	④志戸桶民家	7.7-11.7	10.3	141
ネムノキ標本	⑤南さつま市	9.5-12.2	10.8	17
	⑥鹿児島市	9.0-11.4	10.3	30
	大橋 (2016)	10-17		
ヒロハネム標本	⑦上甑島	15.6-23.1	20.1	48
	⑧諏訪之瀬島	20.5-23.2	22.1	10
	⑨中之島	23.4-27.5	25.7	11
	⑩天草	16.1-21.1	19.0	9
	⑪龍郷	23.1-24.5	23.7	8
	大橋 (2016)	15-20		

表2 小葉幅測定値比較(外れ値も含む)

産地		小葉幅 (mm)	平均 (mm)	サンプル数
喜界島産	①川嶺天然記念物A	2.1-4.5	3.1	374
	②川嶺天然記念物B	2.5-4.6	3.3	99
	③川嶺民家	2.5-4.2	3.4	142
	④志戸桶民家	2.2-3.6	3.1	141
ネムノキ標本	⑤南さつま市	2.8-3.4	3.0	17
	⑥鹿児島市	2.5-3.2	2.9	30
	大橋 (2016)	4-6		
ヒロハネム標本	⑦上甑島	4.9-8.2	5.8	48
	⑧諏訪之瀬島	5.1-7.0	6.3	10
	⑨中之島	7.4-10.1	8.8	11
	⑩天草	5.9-6.7	6.3	9
	⑪龍郷	6.8-7.7	7.5	8
	大橋 (2016)	5-7		



図4 川嶺天然記念物A



図6 川嶺民家の個体



図5 川嶺天然記念物B (上部が伐採され萌芽が見られる)

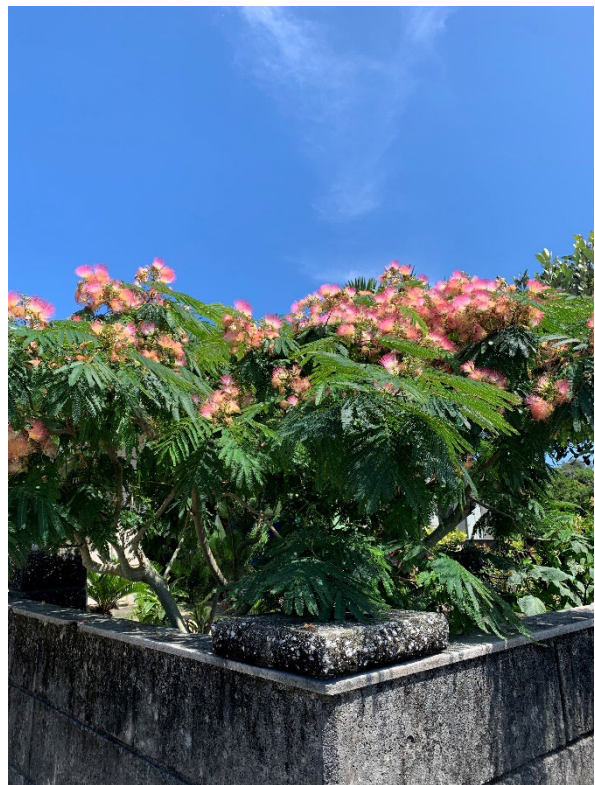


図7 志戸桶民家の個体

4 まとめ

喜界町川嶺に自生し「ヒロハネム」として町指定天然記念物に指定されている個体の小葉は長さ、幅のいずれも、大橋(2016)のヒロハネムの変異幅には当てはまらず、県内各地や天草のヒロハネムと比較しても、小葉は明らかに小型であった。また、小葉の長さはネムノキの変異に当てはまった。小葉の幅はネムノキとしては小型であったが、県本土のネムノキと比較すると、変異幅は重複していた(図2,3,表1,2)。このことから、喜界町指定天然記念物の「ヒロハネム」は鹿児島県本土に見られるネムノキと同一であるといえる。また、島内の分布調査では、喜界島の天然記念物指定地以外でも、ヒロハネムは確認されなかった。

以上により、喜界島にヒロハネムは分布せず、過去の記録もネムノキの誤認であることが明らかになった。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、喜界町埋蔵文化センター松原信之氏には、現地調査の協力いただき、関係資料や生育地の情報も提供していただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

使用標本

喜界町 川嶺 天然記念物 A (KAP20220149s)
喜界町 川嶺 天然記念物 B (KAP20220150s)
喜界町 川嶺 民家 (KAP20220151s)
喜界町 志戸桶 民家 (KAP20220152s)
南さつま市 大浦 (KAP20210032s)
鹿児島市 錫山 (KAP00700631s)
薩摩川内市 上甕島 (KAP20210131s,KAP20210130s)
十島村 諏訪之瀬島 (KAP00100396s)
十島村 中之島 (KAP00101020s)
奄美市 龍郷 (KAP0085004901s)
天草市 下須島 (KAP0000025501s)

引用文献

片野田逸朗(2019)奄美群島に産するネムノキ類. 鹿児島植物研究会誌(8):6-7.
初島住彦(2004)九州植物目録, pp.112, 鹿児島大学総合研究博物館.
中西弘樹・山本武能・鈴木浩司・出口敏也・上田浩一(2019)ヒロハネムとオオバナネムノキの分布と生育立地. 植生学会誌(36):33-39.
大橋広好(2016)ネムノキ属. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編)改訂新版日本の野生植物2, pp.245, pl.165. 平凡社, 東京.
大野照好(1995)喜界島の植生. 南日本文化(28):39-68. 鹿児島短期大学附属南日本文化研究所.
鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西 亘(2022)鹿児島県内の維管束植物分布図集-全県版, pp.236, 鹿児島大学総合研究博物館.